

慰安婦政府調査
に被害者の会

「これで終わり」許さない

不十分

謝罪は

補償は

政府は四日、従軍慰安婦は強制的に連行されたものだったことを事実上、認める政府調査の第二次報告を発表した。内容は改めて被害者に対して「おわびと反省の意」を強調するものとなっている。しかし、政府は「ひと区切りをしたい」との意向。高齢になった被害者への補償問題については引き続き「検討する」ととまっております。民間団体からは「新政権への移行前に慌てて報告をまとめた感じが、徹底した真相究明をすべきだ」と不満が噴出した。

「日本の戦後責任をハッキリさせる会」「フィリピン人元『従軍慰安婦』を支援する会」など民間団体は、この日午後、都内で記者会見。「ハッキリさせる会」の臼杵敬子代表は「政府は今回の報告で官憲の強制を認めているのに警察関係の

資料が含まれておらず、民間団体の資料収集も結果に反映されていない」と調査が不十分であることを指摘した。

一方、元慰安婦で在日韓国人としては初めて、実名で政府に謝罪などを求める裁判を起こした宮城県在住の宋神道さん（80）は、政府が談話を発表したことに



「誠意ある謝罪を」と訴える元慰安婦の宋神道さん（右）＝都内で今年4月

た謝罪もしないでお茶を濁している」と、なお不満をあらわにした。

宋さんは提訴の時から「あやまってほしい。補償はその後」という態度を示しており、支える会でも、政府の正式な謝罪を受けた後、具体的な賠償について考えたいとしている。

韓国での三日間の政府の聞き取り調査に同行した福島瑞穂弁護士は「強制性を認めた上では一歩前進」と政府の態度を評価。しかし、「調査に応じた十六人は氷山の一角。証言でもかなり詳しく述べられていたが、従軍慰安婦という制度そのものが『強制的』だ」ということを、（政府に）認識してもらいたい」と述べ、「今後は、これで政府の真相究明を終わらせることのないよう市民団体も監視すべきだ」と話している。

在日韓国・朝鮮人女性でつくる「在日の慰安婦裁判を支える会」のメンバー、金富子さんの話。前回調査に比べ、政府自ら強制性を認め「多数の女性の名誉と尊厳を深く傷つけた」とした点は大きな前進で、評価できる。しかし、責任の所在や具体的な謝罪の表明の

仕方についてはあいまいなままだ。特に補償問題について政府は「日韓条約で解決済み」との姿勢を崩していない。今後はこれを改め、当事者への補償を進めてほしい。新政権の成立前日の発表には、どさくさまぎれの感じもする。

前進もあった

調査は継続を

のメンバーでルポライター、西野留美子さんの話。政府はやっと強制性を認めたが、日本がいよいよ真相を明らかにする責任を負い始めたという点だ。一回や二回の聞き取りで元慰安婦の女性たちが真相を語れるわけがない。敗戦時の置き去りの状況や旧軍と慰安所

の経営者との関係など、今後さらに調査を継続する必要がある。この問題を、政府間の決着だけで済ませてはならない。（衆院議長に就任する）土井さんも戦後補償問題に取り組みと言っていたし、新政権に期待したい。

「みやぎ・在日の元従軍慰安婦裁判を支える会」メンバーを通じて「ちゃんとし